

月にみがきて



10月



更級小学校だより No. 7

H24. 10. 11

育ちの姿が輝く運動会

更級小学校の運動会に取り組みさせて頂き、標記の題名を考えました。三週間前には何も知らずできなかった子どもたちが数々の競技・表現で発表してくれました。例えば、組体操を観ると思わず息をのみ、うまくいってくれ、落ちるな。立てるかななどと思う。そんな祈りを感じる組体操。組む子どもたちも思いは…、その時は組み上げるのに一心であるから、私たちの心も祈りに変わりました。アクシデントもありましたが、すべての子どもたちがやり終えた満足感を得られる運動会でした。運動会後の25日（火）の朝の挨拶はそれを反映するかのように気持ちの良いものでした。

挨拶といえば、保護者・地域の方々はお気づきのことと思いますが開会式のことです。塚田児童会長の言葉でも句切るいくつかの言葉に対して返事が返ってきました。例えば「がんばりましょう」というと子どもたちが「はい」と答えたのに驚きと同時にすごいと感じて開会式をすませました。そこで、去年もあったのだろうかと思いつつ閉会式でも同じことが起きるか期待していました。閉会式でも何人かの方のお話にある「ありがとうございました」に対して返事が返ってきました。子どもたちが育っているのが分かり心を震わせました。ちなみに、以前の開会式のDVDをみましたが、その時は返事がありませんでした。

では、子どもたちはどこでこれを学び得たのだろうと考えました。家庭・地域で、ご家族・保護者の挨拶実践や温かい声かけによって、安心して反応できる子どもたちが育まれてきたのではないのでしょうか。学校では、授業中の指名に対する先生方の「はい」の返事の指導が根底にあるでしょう。運動会練習の連続は競技・演技の技能を高めるだけではなく、「いくぞー」「おー」などの互いに響き合う言語指導の成果がみえたのではないのでしょうか。

更級の地域・保護者はすごいと感じる運動会

「信濃の国」では、一糸乱れぬ演技のために2度の練習に参加させてもらいました。当日はどうなるのかと考えましたが、みなさん白いシャツにそろわせての踊り、私には楽しむ余裕はありませんでしたが、会議室にある写真のとおり地域・保護者の協力の賜でした。また、PTAの大玉送りでは、ほとんどの学校で、その競技になっても人が完全にそろわず放送がされるのが常でありました。しかし、更級小学校では、そのような放送が一切なされず、競技がすんなり始まったのに驚きました。それだけ組織として機能するシステムと常任委員の方々の努力があるのでしょう。



更級の地域・保護者はすごいと感じる運動会となりました。

そのような地域・保護者の方々にはお願いがあります。児童数減少に伴い、職員の減少が進みつつあります。数年後にはすべての学年で単級の学校になる予定です。子ども的人数が少なくなると草取り・石拾い・練習と授業時間を割いていかざるを得ません。そこで、保護者・地域の力も借りて笑顔あふれる校庭運動会にしたいと考えています。具体的には準備に関わって人手を出して頂く等のご協力を進めていかななくてはなりませんのでご相談させてください。

残念な忘れ物

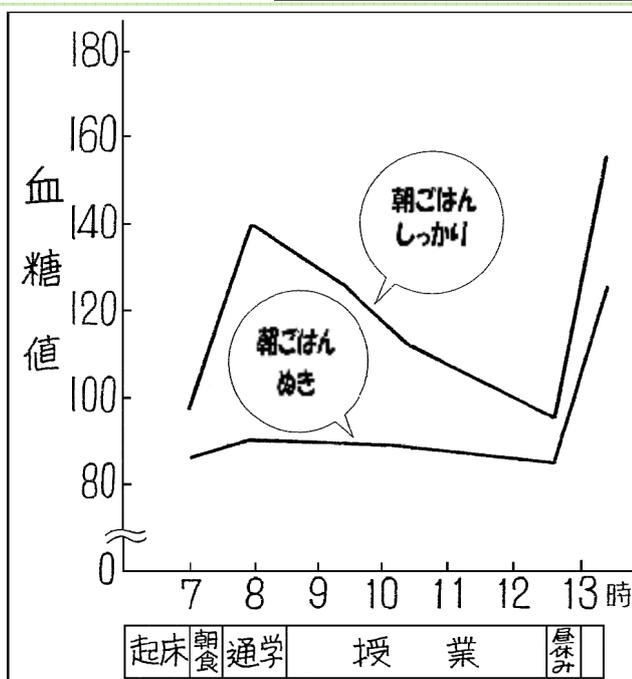
ほとんどの方が素晴らしい地域・保護者の方々であります。しかし、運動会を終え、子どもたちを通して写真のような椅子と靴などの忘れ物をお聞きしましたが、お申し出のあったのが1件でした。心当たりの方は学校へご連絡ください。お申し出なき場合は処分させていただきます。また、残念なことに校庭



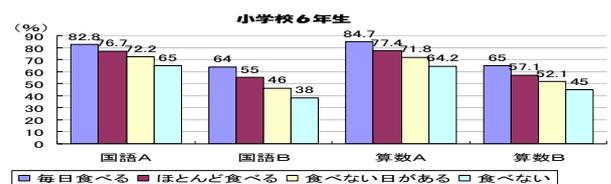
の隅にシートを止めた石が置かれたままになっておりました。校庭は子どもたちの学習する場所です。この石で子どもたちがケガすることがないように、来年度は持ってきたところへお戻しくださいますようお願いいたします。

これが我が子の人生をよりよくする

子育て支援委員会・学級会長部と学校が共同で学校保健委員会が10月3日(水)に開かれました。「早寝早起き朝ご飯」の生活ができるように努める＝「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠である基本的な生活習慣の乱れず、これが学習意欲や体力、気力の向上につながるようになります。これからのある我が子の人生をよりよくするヒントの基本がここにあります。



○学力調査結果と朝食との関係は？ (H19全国学力調査長野県の結果から)



朝食をとる子どものほうが、とらない子どもより

体力テストの結果もよかった。

早寝早起きであるから朝ご飯をしっかり食べられる。しっかり食べた子どもは、体の中にためておくことができない脳が働くのに必要な『ブドウ糖』という栄養が十分供給される。だから、授業中ポーッとせず取り組めるから、学習成績も良いことが全国学力学習状況調査からもわかっています。子どもたちだけでなく家族全体で取り組んでいきましょう。